

招集年月日	平成29年12月19日(火)	午後3時開会
会 場	小美玉市本庁舎 3階 議会委員会室	
出席委員	岩本好夫委員長・幡谷好文副委員長・市村文男議長・荒川一秀・戸田見成 大和田智弘・小川賢治・福島ヤヨヒ・谷仲和雄・木村喜一	
欠席委員	野村武勝	
説明員職氏名	島田市長・島田市長公室長・白井企画財政部長・山口産業経済部長・成井福祉部長・小松都市建設部長・太田企画調整課長・倉田政策調整課長・藤田子ども福祉課長・矢口農政課長・浅野商工観光課長・真家都市整備課長・酒井子ども福祉課長補佐・中村商工観光課長補佐・佐々木まちづくり戦略室長・箕輪秘書広聴課長補佐・関秘書広聴課長補佐・磯部まちづくり戦略室係長・中本政策調整課主幹・近藤政策調整課主幹・	
職務出席者の職指名	書記 富田 成	
付託事件	①ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況 ②政策提言の進捗状況 ③その他	
	開会宣言 平成29年12月19日 午後3時	
幡谷副委員長	皆さんこんにちは。地方創生まちづくり特別委員会を開会いたします。まず、岩本委員長よりご挨拶をいただきます。	
岩本委員長	改めましてこんにちは。まず、地方創生まちづくり特別委員会ご参集いただきまして誠にありがとうございます。本日の特別委員会は通常通り、ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況、政策提言について執行部より報告と答弁をいただきたいと思っております。それと、その他の方で先日の研修の成果であったりとかまとめてきたものがあります。皆さんにご意見をいただきたいと思っております。それと、副委員長から提言があるようですので、皆さんにご協議いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。	
幡谷副委員長	続きまして、市村議長よりご挨拶いただきます。	
市村議長	皆さんこんにちは。お忙しいところ大変ご苦勞さまでございます。今日は午前中と午後と今日3つ目の委員会ということで、色々ご審査をいただきながら、あるいはご意見をいただきながら、今定例会も活発に進めることができました。いよいよ明日が最終日ということで、よろしく願いしたいと思っております。地方創生まちづくり特別委員会、先程委員長からお話があった通り、進めていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。ご苦勞様です。	
幡谷副委員長	続きまして、執行部より島田市長にご挨拶いただきたいと思っております。	
島田市長	それでは、改めて皆さんこんにちは。議員の皆様には明日が最終日ということで、何かとお忙しい中、地方創生まちづくり特別委員会ということでここに開会され、誠にご苦勞様でございます。また、本日は3個目の委員会ということで議長はじめ関係議員の皆さんには、お忙しい中大変だと思いますけれども、ご協力のほどよろしく願いしたいと思っております。この地方創生でございますけれども、ご存知の通り人口減少に歯止めをと、地域をもっと活性化しなければい	

	<p>けないと、まち・ひと・しごと創生法に基づいて小美玉市も遅れることなくスタートしたわけでございます。小美玉版ということでひと・もの地域資源に光を当てて輝かせて行こうということで、ダイヤモンドシティ・プロジェクトを策定したわけでありまして、それに基づいていろいろな事業を国の支援を受けながら進めている最中でございますので、どうかこれからも皆様のご支援をいただきながら、魅力ある小美玉市を作っていかなければいけない大事な時期でありますのでよろしくお願ひしたいと思います。本日は大変お忙しい中ご苦勞様です。</p>
幡谷副委員長	<p>ありがとうございます。早速協議のほうに移りたいと思います。協議の進行については岩本委員長お願ひいたします。</p>
岩本委員長	<p>それでは、協議事項に入ります。1番項ダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況、執行部より説明をお願ひいたします。</p>
酒井子ども福祉課長補佐	<p>それでは、協議事項1のダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況につきましてお手元に配布されております、平成29年度ダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業一欄表に添いまして説明をさせていただければと思います。</p> <p>まず、資料中1番から7番、こども福祉課所管につきまして説明をさせていただければと思います。大変失礼ですが着座にて説明をさせていただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料ナンバー1番、恋愛結婚イメージアップ事業について説明をさせていただきます。この事業は恋愛結婚のイメージアップを図るため、プロモーションビデオの作成やオリジナル婚姻届の作成をさせていただきます。今年度につきましては婚姻届の印刷、記念証の印刷をしております。また、昨年度に引き続き「小美玉市で暮らす幸せなご夫婦」をテーマにした小美玉市で結婚して暮らすイメージがしやすくなるようなプロモーションビデオを現在作成しております。7月27日に契約をしまして、本年度いっぱい契約期間ということで作成中であります。オリジナル婚姻届出については窓口で配布を始めております。</p> <p>また、結婚記念証につきましても引き続き配布をしております。まだまだ利用率が低いところでありまして、それぞれ周知利用促進を図っていきたくと考えているところです。</p> <p>資料ナンバー2番、多彩な合コン・街コン事業について説明をさせていただきます。この事業につきましては様々な形での出会いの場の創出等、多彩な合コン・街コンを開催するというところで実行委員会の皆さんに事業内容の企画運営をしていただきながら様々な事業を計画しております。実施状況及び成果のところには平成29年度の多彩な合コン・街コン事業について記載をさせていただいております。1番の「ビアフェスDE街コン」につきましては、台風の接近の予報がございましたので中止となっております。その下、「空コン」9月16日、こちらは空港対策課で実施しこども福祉課で協力するという形で実施をしております。「ワインばあ〜」につきましてもワインセミナー付きのパーティーを企画しておりましたが参加者不足により延期となっております。次に「ミッション in 玉里」ということでスポーツによる男女の出会いの場を創造ということで計画させていただいておりましたが、これもインフルエンザなどにより参加者のキャンセルで延期となっております。今後につきましては「恋ばなシアター」ということで予定をしているところです。こちらの多彩な合コン・街コン</p>

事業につきましては、本年度いくつかの計画をしておりますが、今のところは参加者の確保が課題になっているところです。特に女性の参加者を募る所が課題になっているので、引き続き様々な団体との協力により参加者を増やす企画や周知方法を検討しながら進めていきたいと考えているところです。

続きまして資料3ページになります。婚活事前講座事業につきましては、これから具体的な事業内容について詰めていくということで事業は実施しておりません。

続きまして資料ナンバー4、出産祝い事業です。こちらにつきましては今年度補正にてお認めいただいたものです。平成29年4月1日以降生まれた新生児を対象にした出産祝い金を支給する事業です。多子世帯に対しての手厚い支援ということで、第1子、第2子がお生まれになった場合には2万円。第3子、第4子が生まれた場合は3万円。第5子以降は5万円ということで支給をしていくこととしています。申請状況ですが12月5日現在で196件いただいております。このうち127件が審査済ということで、そのうち要件を充たしているということで支給できたのが107件ということです。支給済につきましては12月11日現在までで107件支給しております。この後更に12月25日に振り込む予定の方までの審査が進んでいるところです。こちらの事業につきましては、広報紙、市のホームページ、子育てサイト、子育てアプリなどによって周知を図るとともに、経過措置としまして、4月1日から9月30日生まれの方に対しては、個別通知を発送するなどしながら周知を図っているところです。

資料5、イクメン成長物語事業について説明させていただきます。こちらは父親となる人を対象とした講座を開催するなどして、家事に積極的に取り組む男性や、お母さんと一緒に子育てを楽しむ男性を増やしていくことを目的とした事業です。今年度につきましても、男性の育児参加を促すことを主題においた事業ということで計画をしまして、3点の事業を実施しました。「親子DEチャレンジ」10月9日に実施をいたしました。スポレクデーの中で、親子で参加するレクリエーションスポーツを実施しました。会場内で実施しました45世帯115名の参加をいただいたところです。「家族の写真を撮ろう実戦講座」ということで、11月19日に開催いたしました。写真を通して子どもの今の状況、成長、または家族としての喜びを再確認していただくというものです。こちらにつきましてはキャンセルもありましたので2家族6名参加です。12月2日「パパの料理教室」ということで実施をいたしました。父親の家事参加へのきっかけづくりということで、母親が出産、外出、母親の負担間の軽減ということで、お父さんでもできる簡単な料理教室を実施いたしました。5世帯11名参加をいただきました。こちらの講座形式で課題及び反省点ですが、講座形式で行っておりますので参加世帯数というのがどうしても限られてしまいますので、今後こういった実施形態を工夫するなどして、参加できる人数増を目指したいと考えております。

続きまして資料6になります。出産・子育て情報アプリ事業につきましても、こちらにつきましては、子育てサイトということで、インターネット、ホームページなどで子育て世代を対象とした情報を掲載するホームページを運営しております。また、そのホームページに掲載されている情報を、スマートフォンなどでも見やすく最適化するというので、子育てアプリも運営しております。こちらの両方を使いましてイベント子育て関連の情報などを提供しております。11月末現在のアクセス数につきましては、資料①ということでうしろのページに付けております。アクセス数、ダウンロードも順調に増えているところです。こちらの情報ですが、アクセスランキングとして、子育て広場と

	<p>ということで、子ども達が各園等に行って参加できるイベントの情報の検索数とか、時期的に保育園の入園手続き関係の情報等を検索する傾向が見られました。</p> <p>また、子どものインフルエンザに関する情報についても、11月は特に検索が多かった状況です。こういった情報を常にタイムリーにできるように、今後も運営をしていきたいと考えているところです。</p> <p>次に資料7です。子連れに優しい店舗の推奨事業ということで、市内の事業者等にマタニティマークの設置を推進しようというのですが、こちらについては広報紙等で募集をかけているところですが、いまのところまだ設置に関しては問合せ等がないところで、今後各事業所等を訪問しながらこういった制度の利用を進めていきたいと考えているところです。子ども福祉課所管につきましては以上です。</p>
倉田政策調整課長	<p>こんにちは。政策調整課所管事業についてご説明させていただきます。8ページをご覧くださいと思います。着座のまま失礼させていただきます。</p> <p>トータルデザインによるシティセールスの推進事業でございますが、実施状況及び成果につきましては、前回報告の通りでございます。課題及び反省点でございますが、前回の委員会において荒川委員のほうからご提案いただきました特急列車等の列車内広告について調査いたしました。まず、特急ひたち・ときわでございますが、放送手段は映像ではなく最大215文字の字幕放送となっております。料金は1ヶ月で35万円のところ、今年度は20万円を実施している状況でございます。次に、常磐線の各駅停車でございますけれども、モニターにより15秒の映像を流すことができまして、料金は1週間で20万円となっております。ただし、放映できるのは東京・上野～取手駅までの運行している車両のみということでございます。それから参考でございますが、資料には記載がございませんけれども、山手線で15秒の動画を放映する場合がございますが、1週間単位というのがなくて13週間約3ヶ月になりますけれども3,800万円、1週間に換算しますと292万3,000円ということで、常磐線のほうからしますと15倍ほどの値段になるということです。これらのことから現実的な本年度の対応策といたしましては、予算残額5万円弱ということもありますので、金融機関の店舗モニターでの放映、それから資料にはございませんが、常陽銀行のインターネットバンキングというのがございまして、アクセスJというのですが、ここに約17万人加入しておりまして、こういった方へのメール配信ということもありますので、そこら辺も検討しながらこれから年度末にかけて情報発信していきたいというふうに考えておりますので、今後もデジタルサイネージ等の調査研究を重ねまして、費用対効果を勘案しながらより効果的な情報発信手段の検討を行ってまいりたいと思っております。以上で政策調整課所管の説明とさせていただきます。</p>
浅野商工観光課長	<p>商工観光課所管のブック事業、9ページから14ページにつきましてご説明させていただきますと思います。着座にて失礼いたします。</p> <p>まず、よろこそ小美玉事業の中の観光協会補助事業関係でございますが、こちらリーフレット・パンフレット等を作成しております。こちら中国語バージョンということで、今年国際化を図るという意味で、観光協会のほうにお願いしまして作っていただきました。皆様のお手元のほうに、中国語バージョンを配布させていただいたところでございます。現在のところこれが無事作成できまして、主に春秋空港の受付カウンター、空港の出口というところでいまのところ設置している状況でございますが、今後の課題及び反省点といたしまして、</p>

更に春秋空港とタイアップしまして、機内配布、搭乗、降機口配布などを検討していきたいと思っております。

続きまして10ページのほうでございますが、観光協会の補助事業でございます。こちら銀聯（ギンレン）という決算端末導入補助ということで実施しておりますが、そちら銀聯（ギンレン）決算が可能な端末の導入補助を行うということで現在実施中でありまして、現状では宿泊業1社のみの助成金ということで支払いが完了しております。それと、「そ・ら・ら」内の3店舗こちらほぼ導入が決定しておりますが、現在インターネットのセキュリティ上の問題により停滞している状況でございます。それと現在1社が検討中ということでございます。課題といたしましては、現在、銀聯（ギンレン）ということでございますが、最近ではデビット決済、スマホ決済のアリペイやウィーチャット等が主流となってきておりますので、その辺を検討していきたいと思っております。

続きまして、外国語表記の案内等作成でございますけれども、外国語表記の観光情報の発信、観光スポットの看板案内などに外国語を併記して、外国人旅行者が訪れやすい環境を整えていきたいと考えております。こちらの実施状況でございますけれども、「小美玉温泉ことぶき」において現在のところ検討中でございます。それと、小美玉観光協会のホームページ、こちらのほうで「外国人向け特設ページ」の作成も検討しているところでございます。

続きまして、観光案内人員の設置でございますが、地域再生拠点施設「そ・ら・ら」でございます。こちらのほうで中国語を話して観光案内等の魅力を発信する「小美玉コンシェルジュ」1名を配置しております。こちら現在実施中でございますが、こちらに関連しましておもてなしセミナーというものを観光協会中心に実施しております。こちらにつきましては順調に地域業者の皆様に参加いただいております、これからいろいろと外国の方のおもてなし等を実施していきたいと思っております。

続きまして、こちらのおもてなし事業の開催ということで、更に外国人観光客に対しまして「おもてなし意識」の醸成に向けて、更にこのセミナーを開催したことによって、おもてなしを市内在住者対象にセミナーを実施していくということでございます。こちらはJTB関係との共催内容でございますが、午前中はアクティビティスポットでの農業体験、午後はセミナー及びグループワークを実施いたしました。参加者は、日本人20名、中国人10名ということで、ほぼ募集定員が満員でございました。セミナーでは、人口減少の観点からインバウンドの必要性を説きまして、中国人にとって魅力的なスポットを討論いたしまして、インバウンドへの意識の向上に繋がれたということでございます。2回目のセミナーのほうは、実践的に活かして行ける企画が必要であるということが課題及び反省点となっております。

最後に、小美玉市PR動画等編集委託事業でございますが、現在2つの事業として実施している作成の検討をしているところでございます。まずは観光PR促進動画制作ということで、こちら小美玉市のほうで作成しているものでございます。交流人口増加を目的といたしまして、小美玉市のプロモーション映像製作を委託しております。それともうひとつインバウンド推進観光PR動画制作ということで、小美玉市と石岡市、こちらが茨城大学と広域連携を図りまして、現在茨城大学の学生に制作依頼しているところでございます。こちら石岡市との連携動画を作成していきたいと思っております。

①市内映像に特化しまして、小美玉市の珍しい神社仏閣等のストーリー仕立ての映像を検討作成中でございます。

②小美玉市、石岡市が連携しまして茨城大学にPR動画作成を委託している

	<p>ところでございます。</p> <p>こちら現在撮影はほぼ終わっておりまして、最終的に調整していく予定でございます。その中には、小美玉市のほうでは「そ・ら・ら」のハロウィンパーティこれからでございますけど、映像を撮りながら、おみたまヨーグルト、おみたまプリン等を撮影して、更に石岡市のほうではフラワーパーク、柿狩り等撮影を検討しているところでございます。商工観光課からは以上でございます。よろしく願いいたします。</p>
箕輪秘書広聴課長補佐	<p>わたくしのほうから資料ナンバー11番、秘書広聴課所管の市長と市民のランチミーティング事業につきましてご説明いたします。着座にて失礼いたします。</p> <p>資料15ページをご覧ください。市長と市民のランチミーティング事業ということで、10月から11月にかけて3回実施いたしました。玉里地区小中学校の保護者の皆さん、小美玉市PTA連絡協議会女性ネットワーク委員会の皆さん、市内文化事業関係者の皆さん合計51名の市民の方々と実施をいたしました。当日は給食を囲みまして、和やかな雰囲気で行うことができました。学校給食の地産地消の日にあわせて実施し、地元の食材を使用した給食を味わいながら情報交換交流を図りました。当日のテーマに多くあがりまして、小中学校統廃合事業につきましては、対象となる子どもさん達を持つ多くの参加者の皆さん関心が高く、各地域の状況について意見交換が行われました。食事を介して行うということもありまして、市長と身近に交流しやすい場となっております。課題としましては、10名程度までの実施が情報交換等しやすく交流が図りやすい状況ですので、今後も人数を調整しながら行ってまいりたいと思います。以上です。</p>
関秘書広聴課長補佐	<p>わたくしのほうから、地域におけるシビックプライドの醸成事業をご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。</p> <p>自らの故郷の素晴らしさや美しさを再認識することにより、故郷を誇りに思う心（シビックプライド）を育むため、小美玉市を代表する風景のひとつであります「ダイヤモンド筑波」を題材に、フォトコンテストを実施しております。作品の募集を今年の5月から9月11日まで行いまして、応募された作品は合計47作品でございます。内訳はダイヤモンド筑波の写真を撮っていただいた作品フォトコンテスト部門が14作品、それから既にある写真を加工して応募していただく部門です。小学生以下の部門が14作品、中学生以上の部門が19作品という内訳になっております。この後審査を行いまして、市民の日記念事業の中で優秀作品を表彰いたします。また、応募作品については、今後小川文化センターアピオス、四季文化館みの〜れ、生涯学習センターコスモスに展示する予定としております。毎年、玉里地内の霞ヶ浦湖畔から夏至をはさんだ5月中旬と7月下旬にダイヤモンド筑波を観ることができるようなんですが、天候に左右されることが大きくございまして、特に今年の7月下旬はほとんど観ることができなかつたのが課題問題点かなと思っております。写真を加工して参加していただくコラージュ部門であれば、どなたでもいつでも作品を作って応募していただけるので、こちらのほうの応募期間を長めにとりまして、子ども達が夏休みでも作品を作って参加していただけるように、今年度は募集期間を長くしたということで対応をいたしました。</p> <p>続きまして、小美玉市情報発信ボランティア育成事業でございます。小美玉市の魅力を学び、体験し、情報紙やブログ・SNSなどのツールを使って魅力を発信するボランティアを育成いたします。1月に開催を予定をしております。</p>

て、現在、日程や研修内容について調整をしているところでございます。地域コミュニティ等から参加者を募り、地域の魅力を発信する情報紙を作成するための写真撮影する際のこつや、広報紙面のレイアウトや、SNSでの情報発信等実践にあった内容になるよう検討してございます。市や地域コミュニティ・行政区等で行っている魅力あるイベントやできごと等の情報を広め、情報の発信を進めたいと思っております。地域の魅力を発信していただくためには、発信者に地域や地域活動を知っていただく必要がございます。地域活動の若手後継者が現在不足しているように思われるため、情報発信ツールが使いこなせていないのが課題かなと思っております。現在地域コミュニティや行政区で活躍している方々に加え、人材発掘のため新たな担い手の候補者など、より多くの情報発信者となる若手メンバーが参加しやすい環境を整えることを検討してございます。以上でございます。

磯部まちづくり戦略室
係長

続きまして、企画調整課所管事業を説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

まず、資料18ページをご覧ください。ダイヤモンドシティ・プロジェクト推進事業委託としまして、こちらのほうに載せさせていただいております。この事業は昨年度より実施しております、今年度で2年目となります。事業内容としましては、本市総合戦略にあります「魅力創出」「移住定住促進」「結婚促進」の3要素を総合的かつ一体的に実施するもので、より事業効果を高めようというものでございます。今年度事業は4つの事業で構成されております。

【1】小美玉マーケティングスクールでございますが、こちらのほうは、流通シーンでの商品の魅力を伝える秘訣を実践的に学びまして、その技術を普段の生活の中に取り入れ、更に自らがシティプロモーションの一員として活躍していただくために、10月1日、12日、26日、11月9日、17日の5日間で開催させていただきました。述べ117名の参加をいただきまして、参加者より大変好評を得たところでございます。

【2】首都圏在住女性の目線で小美玉市の眠れる魅力を発掘してもらうために、首都圏在住女性5名と案内役の市内在住男性2名により、小美玉PR隊・発見取材ツアーを11月11日に開催させていただきました。小美玉市の気になるところを小美玉PR隊を中心としたメンバーがマイツアーと称しまして、現地の徹底取材を実施しまして小美玉市民との交流や、街あるきを通して発掘した魅力をもとに「恋するマップ」を制作し、本市の魅力を蓄積し発信してございます。こちらのほうの「恋するマップ」というものでございますが、今日は資料ナンバーついていないんですが、こちらの小美玉市ゼンリン未来カレッジと書かれてあるこちらのほうが「恋するマップ」の資料となっております。ご参考までによろしく申し上げます。

【3】体験ツアーを通して移住定住に繋がる小美玉ファンを育成するため、小美玉体験交流ツアーを10月28日に開催させていただいております。こちらにつきましては、首都圏在住女性38名が参加をしているということで、地方移住に興味のある首都圏在住女性を対象に、小美玉を実際に体験する日帰りバスツアーを実施させていただきました。観光名所だけでなく、市の特徴でもある酪農業の現場を見学するなど、身近な生活の様子に触れ、本市への愛着や移住意欲を醸成させていただいたところでございます。

【4】都内にいながら小美玉市の魅力を目、耳、舌で体験できる、首都圏広報イベントを東京銀座の茨城マルシェにおいて、1月18日に開催予定させていただいております。こちらの対象としましては、首都圏在住女性20名、年齢的に

20代から40代の女性が参加対象となっております。既に20名の参加予定者の応募が終わっております。こちらのほうは地方移住に関心の高い女性に向けた広報イベントとして、小美玉市産の味覚を味わいながら、他のツアー参加者の体験レポートや、実際に小美玉市へ移住した女性の経験談等と市長との交流こちらのほうを中心として行わせていただく予定でございます。

続きまして19ページをご覧ください。小美玉市ふるさと同窓会応援事業でございますが、こちらの事業も昨年度より2年目の事業として実施させていただいております。昨年度は、補助交付件数が2件と少なくなっております。問合せ等が多数あった中で、今年度は年齢要件等を変えまして実施させていただいているところでございます。年齢要件につきましては、25歳から30歳まで全ての年齢を対象としまして、30歳から65歳までで5歳刻みの年齢を対象としております。その他の要件緩和につきましては、参加人数が40名以上となる場合のみ、近隣市町村店舗で実施可能となっているほかに、1団体あたりの補助限度額を50名10万円から、75名15万円と増やしているところでございます。12月現在での実施状況でございますが、いま終わっているものが3件112名の参加です。事業費としまして22万4,000円支出しております。また、1月開催予定で、50歳・小川南中同窓会75名の方が予定されているところでございます。

続きまして20ページをご覧ください。ヨーグルトサミットの開催ということを進めさせていただいております。この事業は県内屈指の生乳の生産量を誇る小美玉市で作られる乳製品、特にヨーグルトの普及促進、おみたまブランドの確立並びにシビックプライドの醸成を図るため、全国のヨーグルト生産地に呼びかけまして、ヨーグルトの今後の消費拡大や交流人口の増加、おみたまブランド確立に向けて活力あるまちづくりとするために、平成30年10月20日21日の2日間でイベント開催することを予定させていただいているところでございます。こちらの事業ですが、その前段としましてイベントの実実施計画の策定を行ってまいります。イベント運營業務の企画提案並びに基礎調査実施、分析、事業スキームの検証など来年の開催に向けまして、各種団体、関係自治体、茨城県ヨーグルトメーカー等と調整を図り準備を進めてまいりたいと思います。以上企画調整課所管事業の説明を終わりにします。

真家都市整備課長

最後に都市整備課所管事業についてご説明させていただきます。最後のページ21ページをお願いいたします。

家賃・住宅取得補助事業（移住促進住宅取得補助金）事業でございます。予算額につきましては450万円、現在の執行額につきましては250万1,000円でございます。事業内容でございますが、本市へ移住される方を対象に住宅取得に要する経費の一部を助成する事業でございます。実施状況及び成果の欄をご覧ください。11月30日時点で、申請件数10件でございます。補助金額250万1,000円でございます。内訳につきましては新築住宅5件、中古住宅5件でございます。前回8月末時点の6件増、140万円増となっております。なお、申し込み期間を5月8日から11月30日までとしておりましたが、来年1月15日まで申込期間を延長しているところでございます。次に、課題及び反省点でございますが、市のホームページや広報紙及び県ホームページ内の専用サイトでございます「茨城移住ナビ」で情報の発信をしているところでございますが、市外にお住まいの方が対象のため、なかなか周知が行き渡らないのではないかと考えているところでございます。また、申請相談者のほとんどが、基準日となります平成29年4月1日以前に住宅を取得した方からの問合せが多

	<p>くあったこととございます。</p> <p>続きまして対応策といたしまして、この補助事業をより活用していただくため、市及び県、国のホームページに住居に関する専用のホームページ等に情報発信を図っていきたいと考えております。また、次年度以降につきましては、住宅取得基準日などの見直しを検討していきたいと考えておるところでございます。説明以上でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
岩本委員長	<p>以上で執行部の説明が終わりました。委員の皆様でご意見ご質問等ございましたら挙手をもってお願ひいたします。</p>
谷仲委員	<p>わたくしのほうから2点ご提案、また、確認をさせていただきたいと思ひます。まず、こちら一覧表8ページでございます。トータルデザインによるシティセールスの推進事業という項目なんですが、提案的要素のほうが強いんですが、昨年1月に正副委員長研修で高松市のほうに行つてまいりました。高松市は盆栽が有名ということで、そのイベント開催において地元の運送業者さんにこのPR用のポスターを貼つて走つてくださいというお話を伺つたことがあります。これと同じような形で、今月の頭にわたし都内のほうを車で走つておひまして、そのときたまたま東海地区にある運送会社さんの車のほうに自治体のPR「子育てなら何々市」というカンガルーのデザインのステッカーというか、ある程度大きめのポスターみたいのを、都内を走る地元の運送会社さんが車に貼つて走つているというのを実際目にしまして、これは費用対効果という面から捉えると、効果は案外目につくのではないかとこのところ、これひとつご検討いただければというのがまず1点でございます。提案的要素を含めてまず1点目お伺ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
倉田政策調整課長	<p>委員ご指摘の通りそういったものの民間の事業者様、例えば小美玉市の循環バスとかそういったものを利用して、例えば小美玉市のPRであるとか、今度ヨーグルトサミットもありますが、そういったものを掲載してPRするというのもひとつですので、これから制度設計についてはいろいろと検討しなければいけません、そういったところも検討していきたいと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
谷仲委員	<p>ありがとうございます。よろしくお願ひします。</p> <p>続きまして20ページ、ヨーグルトサミットの開催についてです。こちらの事業内容のところ、しかしながら全国的には市に対する乳製品、特にヨーグルトへのブランドイメージが乏しいというところの文ですね。それを踏まえて今後の消費拡大や新たな展開を見出す契機とするところとともにとこのところでございます。これからだと思ひますが、新たな展開を見出す契機、このところ今後どのようなところで詰めていくかというのがもし固まっている段階でしたらお聞かせ願ひたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
磯部まちづくり戦略室係長	<p>谷仲委員のほうからお話いただきましたことにつきまして、まだ詳しく決まっていないところもございまして、分かる範囲内でお答えさせていただきたいと思ひます。着座にて失礼します。</p> <p>ヨーグルトサミットのほうですが、大きく2つに分けてイベントサミットと、ビジネスサミットに分けて開催させていただく予定でございます。イベントサ</p>

	<p>ミットはもちろんヨーグルトの消費拡大と交流人口の増加ということを見ていますので、お祭りのな、もしかするともっと大きいマルシェ的なものを考えて実施したいなというふうに考えているところでございます。それとは別のビジネスサミットのほうで谷仲委員さんのほうからいまお話がございました、ビジネスの要素を強く取り入れた中のサミットの的なものを開催したいなというふうに思っております、じゃそれはどういうことかと申しますと、ビジネスサミットの中では、流通をテーマにしました講演会なり、ビジネスマッチング事業等でいま調整しているところでございます。その中でビジネスマッチング事業は、茨城県内でもいろんな金融機関等が実際に実施しております、いろんな企業同士を結ぶということをやらせていただいているところですが、今回そのビジネスサミットの中でも同じように茨城県内のみならず首都圏流通が非常に大事になってくるということもございまして、首都圏の金融機関等を調整しながらより幅広い流通のほうをのせられるような形で、ビジネスサミットのほうを行っていききたいなというふうに考えております。やはりビジネスサミットの中では大事になってくるかなと思うのですが、乳酸菌の効能効果、機能性等を含めましたパネルディスカッションや、基調講演等、そのあとの各市町村の担当者、工場長等、会員等も予定しております。その中であらたな流通だけではなくて、それぞれの市町村の特徴を融合させたようなお話し合い、商品の開発に向けてのお話し合い等ができればいいかなというふうに考えているところでございますが、いまのところはまだ正式には決まっていないところでございますので、現段階での考えとしてはここら辺までということによろしいでしょうか。</p>
谷仲委員	<p>ありがとうございます。さきほどあった生産者、流通業者、及びメディアを対象とした、いまほんとにこのメディアの部分が一番プロモーションというか、そういうところでは効果が大きいのが現実だと思います。そういうところで今後こちらの取り組み、これをしっかり立案していただきたいというところでございます。交流人口の増加という観点から、これは一例で参考までになんですが、埼玉県日高市にサイボクというところがございます。ここは小美玉でいうと、そ・ら・らみたいな施設と認識していただいて結構だと思うのですが、その敷地内でサイボクハムを製造販売ということで、要はそのハムを買いにそこに人が集客するという。これはもう10何年前かにわたくしが当時小川町商工会の青年部の活動の中で携わっていた要はブランドイメージを高めていきたいと思いますという取り組みの中で、取り組んでいたときのことを思い出して参考になればと思っております。このヨーグルトサミットを契機にこの小美玉のヨーグルト、こういうものをいかにPRできるか、そしてそれがメディア媒体にのることによって、小美玉のヨーグルトをそ・ら・らでしか買えないものがあるとそれに類似したケースになる期待も寄せております。このヨーグルトサミットにつきましては、今年の当初予算におきまして実施計画とか、予算特別委員会で全会一致で議決して、そこから報告事項がある度毎に全協等でご報告いただいているところでございます。そういうところで逐一あらたな動き等があればご報告いただければと考えております。第1回全国ヨーグルトサミットということで、これは小美玉の乳製品、特にヨーグルトを全国発信、またはブランドイメージこういうものをつけるのに非常に効果大であると考えておりますので、よろしく願いをいたします。わたくしのほうからは要望といたしまして以上でございます。</p>
岩本委員長	ほかございませんか。

幡谷副委員長	<p>2ページのほうの多彩な合コン、街コン事業のほうで、いろいろと事業計画されていたかと思うのですが、台風による中止、人数の確保ができなくて中止ということもさきほどの説明でお伺いいたしました。せっかくなので、ほとんど独自の事業が全て空コン以外はできなかった。これから恋ばなシアター～妖精と遊ぶ×劇場で恋をする～が2月18日予定されていると思うのですが、是非事業のほう推進していただければと要望でございます。</p> <p>続いて4ページ出産祝い事業の中で127件が申請済で107件支給済ということとお聞きしました。20件が実施されていないのは、手続き上のことなんですかそれを1点お聞かせください。</p>
酒井子ども福祉課長補佐	<p>審査済と支給済の違いなんですけれども、審査をした結果支給要件が同一世帯内に滞納がある方は支給できないというのがありますので、そういったものに該当した場合には、申請をしていただいて審査をした結果支給には至らないというケースが稀ではありますが、そういったものが支給に至らない数字の一部ということになります。</p>
幡谷副委員長	<p>税金の滞納があったということですかね。すみませんもう一度お願いします。</p>
酒井子ども福祉課長補佐	<p>はい。</p>
幡谷副委員長	<p>分かりました。</p>
岩本委員長	<p>ほかございませんか。</p>
市村議長	<p>このヨーグルトサミットなんですけれども、こういった形で進んでいると思うのですが、この間も説明をいただきまして、産業建設委員会のほうで説明があったと思うのですが、企画が最後まで担当するのか、ある程度商工観光課とそんな感じで一緒にやっていったほうがいいんじゃないかなというような気がしているのですが、その辺はどのように考えていますか。</p>
太田企画調整課長	<p>ただいま議長からヨーグルトサミットの実施に向けて、ヨーグルトという素材でございますので、産業経済部、企画財政部一緒になって取り組んではどうかということで心強いご意見をいただきました。前の全協でわたしのほうからご説明させていただきましたように、この実施に向けましては現在実行委員会の立ち上げに向けまして、企画財政部と産業経済部で検討を重ねているところでございます。今後は更に内容を詳細な部分も含めお互いに調整を図りながら進めてまいりたいと考えてございます。実行委員会の立ち上げの段階では、お互いにこの内容につきまして、内容を情報共有できるような状況にしながらスタートを切ってまいりたいと考えてございますのでよろしくお願いいたします。</p>
岩本委員長	<p>ほかございませんか。</p>
福島委員	<p>幡谷委員さんがおっしゃった出産祝い金の支給できなかった理由で税金滞納があるからというお話がありましたけれども、この件に関してその時点で税金</p>

	<p>滞納があってもその後善処されたとか、話し合いによって改善方向に向かっていくという家庭に対しては、やはり是非とも支給していただきたいなど、この申請期間の間に税金滞納があったけれど、その後、善処されたという方には何か良い方法で同じように出産祝い金が支給される事業であってほしいと思いますのでこの件しっかりとわたしは要望しておきます。</p>
岩本委員長	<p>要望ですね。分かりました。 ほかございませんか。大丈夫ですか。</p> <p>わたしからひとつだけ、ダイヤモンドシティ・プロジェクト関連事業実施状況ということなんですけど、実施している事業でこの中を見ると、課題及び反省点、対応策等が記入していないものがあります。要は事業を立案執行するまでには皆さん大変だと思います。事業すればいいというものでもなくて、課題を見つけたり反省点見つけたりして対応策、中には課題と反省点があるのに対応策を記入していないものもあります。こういうところ次は内容をしっかりと記入して調査をしていただけるように要望します。</p> <p>ほかないようなので、ここで16時10分まで休憩といたします。よろしくお願いいたします。</p>
	<p>休憩 16:00～16:10</p>
岩本委員長	<p>それでは、休憩前に引続き会議を開きます。 ②政策提言について、執行部より説明を求めます。</p>
倉田政策調整課長	<p>それでは、政策提言についてご説明させていただきます。失礼ですが着座のまま説明させていただきますと思います。</p> <p>提言1、「羽鳥駅周辺整備事業の推進（陸の交流エリア）」の進捗状況についてご説明いたします。本日は、第5回羽鳥駅周辺整備に関する政策調整会議についてご報告させていただきます。</p> <p>まず、内容でございますが、県内「まちばん」の実施状況及び土浦市「まちばん」視察の報告について、これは警察官による交番ではなくて、民間人を活用した「まちばん」を実施している県内の事例として、龍ヶ崎市、笠間市、取手市の業務内容・勤務時間・雇用人数・費用等について調査報告を行うとともに、土浦市の荒川沖駅、神立駅で実施している「まちばん」を視察した結果、建物の建設費や維持管理費、業務内容、勤務体制・費用等について確認いたしました。</p> <p>次に、北茨城市立図書館の視察の報告についてでございますが、平成28年6月にリニューアルしました北茨城市立図書館の視察報告を受けました。施設の規模は大変大きいものでございますが、図書館内でカフェを営業しているという特徴があり視察したものでございます。</p> <p>次に、サウンディング型市場調査の実施につきまして、さきの全員協議会でもご説明させていただきましたが、先進事例として石岡市、東京都足立区、福井県敦賀市の内容を確認するとともに、実施要領（案）をもとに今回実施する市場調査の内容について協議いたしました。協議の内容につきましては、実施要領の内容を記載しております。</p> <p>・政策提言書、羽鳥駅東口市有地の活用等に関する提言</p>

- ・市として行政機能を備えた官民複合施設を想定
- ・複合施設内への実現性の高い行政機能として「行政窓口機能」「図書館機能」「多目的スペース機能」の設置を想定

・民間事業者から幅広く意見を聞くため「提案を聞くにあたり、市の想定を踏まえるか否かは、この限りではない」の文言も加えるということでございます。

今後の進め方でございますが、サウンディング型市場調査実施要領（案）をこれからまとめまして、市場調査を実施し、本年度内の結果公表を目指すということで、その市場調査の結果に基づきまして、施設の活用案や、公募条件の整理を進めてまいります。羽鳥駅周辺については以上でございます。

提言2、「茨城空港拠点地区の各種施策の推進（空の交流エリア）」の進捗状況について説明いたします。

企業誘致に関する政策調整会議につきましては、第2回検討部会、第5回の政策調整会議を報告させていただきます。まず、検討部会の内容につきましては、空港線沿線の農振区域等について、都市計画法、農工法を利用した除外方法の可能性について調査結果の報告及び今後の対応策について協議いたしました。企業を誘致するために、県と協議した結果、事前に用途地域や農工法などを活用し、農振等を事前に外すことはできないということで、県に対しても具体的な事案がなければ相談（協議）できないということございました。まずはこういうことがありましたものですから、まずは企業から打診があった際に、市として商工観光課が窓口となって、許可条件などの相談に迅速に対応できるよう協議・検討する体制を整えていこうということで話し合いが進みました。

次に、第5回政策調整会議の協議内容でございますが、まず、優遇制度につきましては、これも全協系等でご説明させていただきましたが、

- ・固定資産税の免除期間を3年から5年に拡大するという。これは、平成30年4月から運用開始。制度の実施期間は平成30年度から3年間とするものでございます。
- ・雇用奨励金につきましては、市内在住の新規雇用者1人につき10万円を補助し、3年を限度として交付するものでございます。平成30年4月から運用開始し、制度実施期間は平成30年度から3年間、1社あたりの奨励金上限額1千万円とするものでございます。
- ・用地取得奨励金につきましては、関係所管課での協議の結果、財源確保が難しいため、実施については今回見送るということにしております。
- ・ホテル誘致につきましては、来年度より実施する固定資産税の免除期間拡大、雇用奨励金の対象とすることといたしております。

続きまして、免税店につきましては、空港及び周辺の店舗については、既に免税販売を実施しているところがございます。未登録の店舗については、調査の結果、なかなか前向きな姿勢は見受けられないということで、補助制度等を設けたとしても手を挙げる店舗が見込めない現状でございますが、東京オリンピックを控えまして、今後外国人旅行客の集客も増える可能性がありますので、補助制度等の策定はせずとも、登録への相談対応など、免税店販売登録への呼びかけを行っていくこととしております。

茨城空港沿線の土地利用につきましては、上記の検討部会の協議結果について報告したところでございます。今後の進め方でございますが、固定資産税の免除期間拡大については、条例の一部改正、雇用奨励金については要綱の策定を行い、来年度当初からの運用開始に向けた準備を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

提言3、「玉里地区の観光振興（水の交流エリア）」の進捗状況についてで

ございますが、玉里地区の観光振興に関する政策調整会議につきましては、前回の特別委員会で、近畿日本ツーリストの担当者を招いて開催しました部会による勉強会についてご報告させていただきました。本日は、その後に開催しました部会による企画会議の内容をご報告させていただきます。

第1回企画会議でございますが、

(1) 持続可能な観光を実現するための実践体制づくり

- ・持続可能な観光には、行政と観光協会に加え、地域住民の参画体制を整えることが重要であること。
- ・実践体制とともに、ビジョンの策定と人材育成を一体的に進めることが大事であることを確認いたしました。

(2) 玉里地区の体験型観光企画造成

- ・玉里地区を含めまして近隣の自治体による広域のエリアがひとつの観光地という考え方で誘客をしまして、玉里地区において短時間で体験できる観光企画を数多く造成すること。
- ・二次交通はサイクリングを前提に考えることとして、次回の会議で商品の検討をすることといたしました。

それを受けまして、第2回企画会議でございますが、

(1) 持続可能な観光を実現するための実践体制づくりでは、

①県内の観光協会のデータから見えることといたしまして

- ・社団法人化しているのは8団体ございます。この団体は、駐車場代やコインロッカーなど、収入源を確保しているという状況でございました。
- ・直営売店や駅前販売店、飲食店はほぼ赤字経営になっております。
- ・どこも市の補助金に頼っているという状況であります。
- ・持続可能な観光には「稼ぐ力」を身につけること。戦略的なマーケティングが必須であることを再確認したところでございます。

②先進的な観光協会の事例

- ・収入源が先進的な事例として、自主財源が80%を超える富良野やニセコ
- ・組織構造が先進的な事例として、八ヶ岳や阿寒を確認いたしました。

(2) 玉里地区の体験型観光企画造成では

- ・ネモフィラ、陶炎祭、偕楽園も小美玉への誘客のチャンスと捉えまして、ここに小美玉市の商品サンプルを数点造成して検討いたしました。また、プランは各事業者が作り、ワンストップ窓口で観光協会が受ける体制と、決済システム導入を検討すべきではないかという意見が出ております。今後の検討事項としましては、玉里地区の体験型観光商品サンプルを最低30本造成しようということになっております。これらを念頭におきながら、政策調整会議において小美玉市としての取り組みを検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

提言4、自治体連携による人口増加対策の推進についてご説明いたします。

まず、資料はございませんが、自治体連携の調査研究につきましては、さきの特別委員会でもご説明いたしましたとおり、人口減少が地域にもたす様々な課題です。県央地域市町懇話会の合成9市町村で一丸となって対応するため、茨城県央地域定住自立圏連携事業を4月からスタートしたところでございます。事業の進捗等についてお示しできる段階になりましたらご報告をさせていただきます。事務局水戸のほうでございますが、まだ取りまとめができていないという状況でございますので、いましばらくお待ちいただければと思います。

次に、小美玉市が結ぶ災害時における主な応援協定の資料をご覧いただきました

	<p>と思います。災害協定の締結推進につきましては、これまでに46の災害時応援協定を結んでおります。前回の特別委員会後の協定締結といたしましては、2枚目の一番下段になりますが、ナンバー47、48に掲載しました2つの協定を締結しております。今後も各所管において災害協定締結について調査・研究を重ねまして、協定締結推進に努めてまいりたいと思います。</p> <p>最後に、高齢者施設等の受け入れ推進につきましては、資料はございませんけれども、先進事例や県及び周辺市町村の動向を踏まえまして、引き続き検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上で説明を終わります。</p>
岩本委員長	<p>以上で説明が終わりました。委員の皆さんからご意見ご質問等ありましたら挙手をお願いいたします。</p>
木村委員	<p>提言2、上段のほうの1に関してなんですけれども、ここで大変気になることだと思うのですが結果から申し上げますと、いままでと何ら変わらずこれまでの回答の流れと、いつも全く同じということだよ。今後も全く進展しないことを意味するのではないかなどこの文章を読むと見えるんですよ。事前に農振区域の除外も勿論できないし、用途地域の地元の要望があっても定められないということで大変な問題だと思うのですが、これをお願いしたときに農振除外が先行したり、用途地域の指定は高いからなんて難しいかもしれないから同時に地区計画とかそういうのをお願いしてちょうだいと話したと思うんですけど、そっちのほうの切り口というのはどうなっているのですかね。</p>
倉田政策調整課長	<p>農村地域工業等導入法の新しい制度として、未来型というのがあったかと思いますが、そういったところの状況がまだ県のほうの担当者もハッキリしていないというような状況もありまして、話が進んでいない状況でもあるんですけど、ただ小美玉市で既に小岩戸にある農村工業導入地域というのがあるということと、茨城県でやっているテクノパークがあるということが、ひとつ支障にはなっているということもありまして、小岩戸地区の農工団地の除外が必要なのかどうなのかということも検討のひとつにはあがっております。ただ、いまの段階では相談体制を早く進められるという状況で対応するしかない状況ではありますけれども、そういったところが県のほうの相談体制もできてくれば話を進められるようにはなると思いますので、いまの段階ではこのような状況、苦しい状況ではあるんですが、その点をご理解いただきたければというふうに思います。以上でございます。</p>
木村委員	<p>テクノパークは工業団地だと思うのですが、そ・ら・らの辺りに商業事業を誘致しようとかそんな話もあったかと思うのですが、テクノパークのことは全然関係ないんじゃないかという気がしますし、そもそも商業施設にしろ、企業にしろスピードが大事だと思うのですが、これが、打診があってから農振を引き抜いたり、10町歩連担外したり、農地転用したり、許認可しましよなんて3年もかかったら絶対こないと思うのですよね。何かいい方法、優秀な方がいらっしゃるんだからないのかと思いますけれども。結論から言ったら全くできないということだよ。この文章を見ると。もっと市民の皆さんもいいと思っているのか、地区計画のほうはどうなっているのかそこが聞きたいんですよ。</p>

真家都市整備課長	地区計画についてですけれども、用途地域と同様でございます、具体的には事案の定めがない限りは、地区計画は策定することができませんということでございます。
木村委員	用途地域でも大変なところ地区計画ですら来てくれるかもしれない可能性のある企業名を出して、そういうふうじゃなくてそれも制定できないということですか。
真家都市整備課長	その通りでございます。
木村委員	左様ですか。よく分かりましたすみません。
戸田委員	羽鳥駅周辺の開発というのはあると思うのですが、あそこは線引きがされていてビジネス街ができないようになっているのですね。だからそういうものを全般的に見直したらどうかなと思うんですね。やっぱり小美玉市の中で一番発展しやすいところが羽鳥駅だと思うんですね。そこに目をつけてきちんと整備をし直すということが大事なことだと思うんですね。何弁も申し上げてきたけどひとつも手をつけていないと。住宅ばかりできるようになっているんですね。あの辺をもう少し直してもらいたい。小美玉市全体としては文化の低度が低い町だとかこういうふうにはわたしは理解しているんです。本屋のひとつもないよね。本屋がないということは5万人の人口だから本屋のひとつやふたつもあってはいいわけだよ。それが無いというのは残念だ。ここに図書館を作るとか考えているようですので、図書館の中に本屋の付属物でも作るとか、本屋と一体となつてやるとか何か駅前あたりにそういうものを造ると賑わいが。やっぱり賑わいがなければ人は集まらないですよ。そういうこともう少し積極的に考えたほうがいいんじゃないかなと思っております。追加です。
岩本委員長	要望でいいですかこれは。
戸田委員	はい。
岩本委員長	ほかご意見等ございますか。大丈夫ですか。 それでは、執行部の皆さんいま要望いくつかあがりましたのでよろしく願いいたします。 それでは、③その他に入ります。次年度の議会報告会案件について皆さまのお手元に議会報告会用報告書があります。調査事項とあります。この部分は今日の意見を取りまとめて記入させてもらうような形でいいですか皆さん。ある程度素案作ってもらって正副委員長に任せてもらっていいですか。
各委員	「はい」と呼ぶ声あり。
岩本委員長	いまの内容・要望だったりとか執行部の答弁も含めて。こちらの委員会のほうの報告事項はそういうふうにさせていただきます。それと視察のほうまとめてきましたので、副委員長に読んでもらって皆さんにご意見等伺いたいと思

	ます。
幡谷副委員長	<p>それでは、皆さんのお手元にある市議会視察報告書があると思います。こちらの内容について読み上げます。</p> <p>視察地及び視察内容</p> <p>①株式会社まちづくり青梅の取り組みについて（東京都青梅市）</p> <p>その中で読み上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立の経緯や概要について ・会社の事業内容について ・事業の効果や課題について ・運営経費について <p>②都市交流事業について（群馬県川場村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に至る経緯について ・事業の概要について ・事業の効果や課題について ・経費（区と村の負担割合や国県等の補助金など）となっております。 <p>次に、目的及び施設への反映等になります。</p> <p>小美玉市では、全国的な傾向と同じく若年層の流出が顕著に現れ、特に女性の減少が目立つ傾向にあり、この課題に対し「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」を策定しました。当市議会としても小美玉市の特性を活かした、出会い・結婚・出産・子育て・教育・就業などの課題克服のために執行部と一丸となって取組まなければなりません。そこで、中心市街地の空洞化が大きな課題となっており、まちのマネジメントを推進していく組織として民間事業者のノウハウを活用した、(株)まちづくり青梅を設立し、雇用創出、市街地活性化に効果を上げるなど特色ある施策を実施している青梅市の取り組みについて研修しました。また、人口減少に少しでも歯止めをかけるためには、都会から小美玉市へ新しい流れをつくり、本市の魅力を全国に広めるなど、交流人口や移住促進施策を充実させる必要もあります。そこで、川場村の都市交流事業の取組みなどの交流人口増加施策を研修しました。今回研修した青梅市と川場村の事業は、全国の市町村が抱えている人口減少や市街地の空洞化などの課題対策としては、特色のある先進事例でしたが、有する資源や状況が異なるため、すぐに本市で取り入れることは難しいと感じました。しかし、まちづくりのマネジメントに民間のノウハウを活用することや、都市との交流が移住促進に直接つながっている事例など、小美玉市の地方創生実現に向けての委員会が調査研究すべき政策の参考とすることができました。この研修で得た知識を執行部とも共有し、今後の委員会活動に役立ててまいります。以上です。</p>
岩本委員長	<p>ありがとうございました。先般の研修について総務常任委員会と合同の研修ですね。このようにうちのほうでまとめさせていただいたのですが、委員の皆さんから何かご意見等ございましたら。おそらく報告会に載せる資料には少しこれを詰めなければならないと思うのですが、そういったことも含めてほしいこういう概要でよろしいでしょうか。皆さんのほうでほかの見解があるとか、こういったことを入れてもらいたいというのがあればそれも入れますけど大丈夫ですか。</p>

各委員	「はい」と呼ぶ声あり。
岩本委員長	それでは、この件はこれで終了とさせていただきます。あと幡谷副委員長のほうからこの特別委員会に提案があるということなのでお願いします。
幡谷副委員長	<p>すみません皆さんちょっとだけお時間をいただきまして、わたくしのほうからお話させていただきます。</p> <p>いま学校の統廃合が進む中、これから廃校となる小学校が玉里地区2校、小川地区5校発生します。そのような中で、昨日パブリックコメントも市のほうから出ております。議会としましても勿論、今後、地方創生論という観点の中で、この廃校を利用してそこを機転に何か爆発的なものになる大きな要素となりうるかとわたくしは考えており、皆さんも勿論考えているところだとは思いますが、勿論、地域、自治体、民間であったり、NPOであったり、そして我々議会もこの廃校利活用に対して深く調査・研究をして考えていかなければならない事案と考えております。事前に議長ともお話しをたんですけども、今後、議会としても調査・研究の委員会を立ち上げていく可能性もあるというお話もいただいております。この地方創生の中でもいろんな角度で、今後、廃校利用について触れていけたらなというふうに考えておりますので、皆さんの意見も頂戴したいと思っております。以上です。</p>
岩本委員長	委員の皆さんからご意見等いただければと思います。
谷仲委員	いまの説明の中である程度もう少し具体的なプロセス。過程ですね。ただ漠然と取組みますだとなかなか難しいところがあるので、もう少し具体的プロセスを含めてどういう調査をしていくかというそのところを確認したいと思えます。発想は大変素晴らしいと思えます。ただそのプロセスを確認させてください。
幡谷副委員長	<p>わたしも以前に一般質問でも廃校利用については、議会の中で要望させていただいております。その中で市民の方からいろんな話し、スポーツ施設にして欲しいですとか、地域農家の学習施設にして欲しいですとか、いろんな話を耳にします。そのような中でNPOの団体も、これ一般質問でもお話ししましたが、絵画の保管施設これは全国でまだ1箇所もありません。ざっくりいまお話ししましたが、洋画、日本画の保管施設というのが全国にまだ1箇所もどこにもないんですね。その中で、絵画関係の各団体が保管施設をいま実際探しているというところで、廃校に白帆の矢をたてたというところでもあります。その中で小美玉市のほうにいま打診があるそうです。これはまだ正式ではないと思いますが、こういった、なかなか資料がなくて伝わりづらいところもあるんですが、ここでこういうふうに詳しくお伝えしてもいいものかどうかとも考え深いところですが、せっかくなのでお話をさせていただきます。実際に画家さんが生涯に書き上げる絵というのが500枚ほどあるそうです。その中でハガキ1枚1号に値段がつく画家さんというのがその中で数千人、数万人の画家さんがいる中で、ほんのひと握りの画家さんだけしか食べていけない状況。それであっても500枚生涯書き上げる絵は、その画家さんが亡くなったあとは家族なり親戚なりが譲り受けてそのあと廃棄処分になっているというのが現状だそうです。そういう中で小美玉市は文化に精通しているととても盛んなところとわたしは考えてい</p>

	<p>るところでありまして、そのような中で、廃校利用の提案のひとつとしてその保管、そのNPO団体が保管をして販売であったり、リースであったり、もしくは芸術を学ぶ学生さんのよりどころであったり、その中でわたしはとても希望のある夢のある話しだなど、全国に1箇所も無いというのもいいところだなというふうにも考えております。いろいろ全国で廃校利用についてはいろんな施設があります。いままで6,000校近くが廃校になってそのうちの約70%、そのうちの5%は用途が決まっているようなので、4校に1校は廃校になって決まらないでいるという状況の中、すみません話が長くなって大変申し訳ないんですけども、廃校利用が決まっているところは教育施設が主になっているというデータがございます。そういった中で絵画、絵ですね。教育の観点から見てもとてもいいものじゃないのかなというふうにわたしは考えております。お話のほう長くなりましたが、それは調査・研究の一貫として今後様々な廃校利用については、勿論地域の方の意見が一番かと思いますが、自治体それと企業を交えて議会の我々もいろいろと調査・研究を進めて考えていくべきではないかというふうに考えております。すみませんちょっとまとまりませんが以上でございます。</p>
谷仲委員	<p>具体的な話を聞かせてもらってありがとうございます。プロセスという、いま市のほうで基本方針のパブリックコメントがこれから。大前提としては地域の住民の皆さんとの対話というところがまず、ここが一番になってくるのかなと。地元の学校という位置付け、そういうところが一番になってくるのかなと。その中で今後の利活用についてというところの調査・研究という捉え方によろしいかどうかそのところを聞きたいです。</p>
幡谷副委員長	<p>はいそのように考えておりますので、そうとっていただいて結構です。</p>
谷仲委員	<p>ありがとうございます。</p>
岩本委員長	<p>地方創生のほうでも今日はダイヤモンドシティ・プロジェクトの進捗状況、政策提言についての報告を受けましたけど、地方創生という観点で見ていくと一杯切り口があると思うんです。その中で全部が全部取組めるかどうかは別として、いま副委員長からあったようなこういったところを。これは地方創生で取り組むべきなのか議会全体で別に取り組むべきなのかこの辺のところは皆さんと議長と議員間でのお話となると思うのですが、どうなんでしょ議長。例えば学校跡地を今後どのように有効利用するか、それだけの特別委員会ではちょっとあれかなと思うのだけど、これは地方創生で関わっていったほうがいいのかと思うのかあとはそれだけのを何か作るのか。</p>
市村議長	<p>これは市としても大きな問題だろうと思いますので、議会としても当然、前にもいろんな跡地利用の検討する議会などできるようなのでございますし、そういったことも議会としてきちんと取上げていくべきだろうということは前から思っていましたので、そのことと地方創生というよりは議会全体としてというふうにわたしは考えているんですが、皆さんと共にいい意見を出しながら考えていけばいいのかなというような考え方でですね。今は。</p>
岩本委員長	<p>せっかく地方創生特別委員会がありますので、提言までいかななくてもある程</p>

	<p>度の調査であったりとか、そういったものはしていくことはいいとは思いますが、ですから、これをどう取組んでいくかは議会全体で考えていくべきですし、であれば、例えば次はそういう資料があればそういったものを次回の委員会の際にでも持ってきてもらって、調査するぐらいのことはいいかなと思います。ほか、委員の皆様からご意見等ございますか。ないようでしたら、これで協議事項終了いたします。</p>
<p>幡谷副委員長</p>	<p>長時間に渡り大変ご苦勞様でした。地方創生まちづくり特別委員会の方を閉会いたします。ご苦勞様でした。</p>
	<p style="text-align: center;">閉会 16:50</p>